

開催要領

① 佐久総合病院教育ホールで受講希望の方

所定の申込用紙(コピーでも可)にご記入いただき、送付願います。
FAXでお申し込みされた方は、必ず電話にてご確認ください。また、メールでお申し込みされる方は、佐久総合病院のホームページ(<https://sakuhp.or.jp>)をご覧ください。

- 受講料・・・一般 3,000円(テキスト代・税込) ※1日のみの受講は2,000円
 学生 1,000円(テキスト代・税込) ※1日のみの受講は500円
 高校生以下 無料 ※テキストや参加数把握の関係上、事前のお申し込みが必要です。
 ※学生料金適用の確認のため、当日は学生証をご持参ください。

- 交流会・・・18日(金) 3,000円(税込) ※参加は事前のお申し込みが必要です。
- お弁当代・・・昼食(19日のみ希望者) 1,200円(税込)
- 定員・・・300名
- 支払方法・・・当日精算のみとさせていただきます。来場いただいた際に受付で精算をお願いいたします。

② Zoomを使用して受講希望の方

以下のQRコード、または佐久総合病院のホームページ(<https://sakuhp.or.jp>)にアクセスいただき、お申し込みフォームから登録・決済をお願いいたします。

お申し込みには、**teket(テケト)**への会員登録(無料)が必要です。



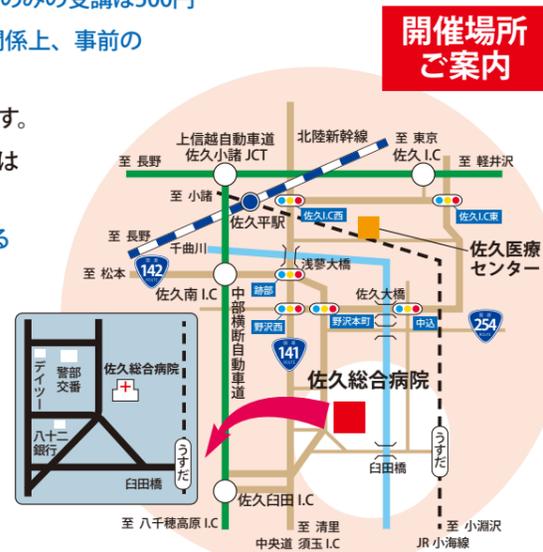
- 受講料・・・一般 3,000円(テキスト代・税込) ※1日のみの受講は2,000円
 学生 1,000円(テキスト代・税込) ※1日のみの受講は500円
 高校生以下 無料 ※テキストや参加数把握の関係上、事前のお申し込みが必要です。

※1人単位でのお申し込みと受講をお願いいたします。
 ※Zoom IDを第三者へ譲渡・販売・公開する行為は禁止いたします。
 ※学生料金適用の確認のため、在籍先へ連絡する場合があります。

- 支払方法・・・お申し込みフォームの支払い方法に従い、お支払いをお願いいたします。
 決済完了後、Zoom IDとパスワードが、ご登録いただいたメールアドレスに配信されます。
 お支払い方法は、クレジットカード決済・コンビニ決済が選択できます。
 ※受講料の払い戻しは原則いたしませんので、ご了承ください。

● 申込締切日・・・7月10日(木)

- 北陸新幹線「佐久平駅」から車で20分
- JR小海線「白田駅」から徒歩で10分
- 上信越自動車道・佐久ICから車で25分
- 中部横断自動車道・佐久白田ICから車で5分



開催場所
ご案内

お申し込み方法・お問い合わせ・連絡先

- ◆ 所定の申込書または佐久総合病院のホームページからお申し込みください(コピーでも可)。
- ◆ 受講票、領収書は事前に発行いたしません。受講当日、会場受付にてお渡しいたします。
- ◆ お申し込み・お問い合わせ先: 佐久総合病院 第64回農村医学夏季大学講座事務局

事務局 第64回農村医学夏季大学講座事務局
 長野県佐久市白田197 佐久総合病院内
 (直通) TEL 0267-82-2677
 FAX 0267-82-7034
<https://sakuhp.or.jp>

■ 主催: JA長野厚生連/JA長野県組合長会/JA長野中央会/JA長野信連/JA全農長野/JA共済連長野/JA長野健保
 ■ 後援: JA全厚連/日本農村医学会/日本成人病予防会/日本農村医学研究会/長野県/信濃毎日新聞社/SBC信越放送/NBS長野放送
 TSBテレビ信州/abn長野朝日放送/NHK長野放送局/佐久医師会/佐久市/小海町/佐久穂町/川上村/南牧村/南相木村/北相木村

第64回 農村医学夏季大学講座

地域をともにつくる

～災害に強い地域と医療～

2025 **7/18**(金) — **19**(土)
 JA長野厚生連佐久総合病院
 農村保健教育ホール
 ※Zoom同時配信



千曲川からのぞむ病院と浅間山



長野県厚生農業協同組合連合会
代表理事 理事長

洞 和彦

今年「農村医学夏季大学講座」は第64回目を迎えました。これまでの長い歴史の中では、時代に即したテーマをその都度取り上げ、私たちの地域が抱えるさまざまな課題について真正面から向き合ってきました。今年のメインテーマは昨年と同様の「地域をともにつくる」とし、サブテーマには“災害に強い地域と医療”としました。

サブテーマの「災害に強い地域と医療」には、安心できる地域をいかにつくるか、その中では、街の施設や環境が安全で快適に整備されていることと同時に、地域の人々が助け合える（共助できる）関係が構築されていることが必要とされています。また、災害時の医療活動を強化するためには、医療機関だけではなく、自治体、地域住民、ボランティア団体などが連携し、協力体制を構築することが不可欠です。

今回はさまざまな立場の講師をお招きし講演いただくとともに、シンポジウムでは現状の取り組み状況等実例を参考にしつつ、また災害時における持続可能な医療提供体制の確保と地域医療への貢献が弊会の使命ととらえ、災害に強い地域と医療づくりについて議論を深めたいと考えております。

信州の盛夏にふさわしい熱い議論ができますことを期待するとともに、開催にあたり、第一線でご活躍の講師のみなさま並びにご支援を賜りました各関係団体等のみなさまに厚く御礼を申しあげます。



佐久総合病院
統括院長

渡辺 仁

今年も例年通り夏季大学講座を開講します。このあいさつ文は、毎年5月の大型連休中に書いてありますが、周囲の山々が新緑のグラデーションでパッチワークのように盛り上がり、初夏の雰囲気を与えています。夏季大学の頃には、緑豊かな山々となっていることでしょう。自然の営みの美しさに改めて畏敬の念を抱かずにはられません。

さて今年のメインテーマは、昨年と同様「地域をともにつくる」とし、サブテーマは“災害に強い地域と医療”にしました。度重なる地震や豪雨災害を経験し、南海トラフ地震への不安の中で日々過ごしておりますが、減災への取り組みをどのように行ったら良いのか誰もが頭を悩ませていると思います。実際の経験を共有し先進事例を学ぶ中で、減災対策と一緒に考える機会にしたいと思います。

また、今年も素晴らしい先生方が若月賞を受賞されました。自然災害に対する人間の存在のはかなさを感じる一方で、人間がもっている勇気や気高さ、そして希望をこの夏季大学講座の中で実感して頂ければ幸いです。盛夏の頃、佐久の地でお待ちしております。

第64回 農村医学夏季大学講座プログラム

1日目 7月18日(金) 11:30～

時刻	テーマ	講師・座長
11:30	受付	
12:30	開講式	
12:45～13:30	若月賞授賞式	
13:30～14:40	[若月賞受賞講演] 市民のための環境監視から環境安全へ 私たちが化学物質に囲まれて暮らして、久しい。重金属、ダイオキシン類、アスベスト、PFASなど有害化学物質による環境や人体の汚染は問題になり続けています。その結果、がんが死亡原因の一位を占め続けています。私は環境監視研究所と熊本学園大学で、市民のための環境監視から、環境安全を求める活動を続けてきました。私たちは有害化学物質と共存できるのか、化学物質管理に関する現代社会の課題と解決策について、ともに考えたいと思います。	熊本学園大学 社会福祉学部福祉環境学科 教授 中地 重晴 氏 座長 由井 和也
14:40～15:00	休憩	
15:00～16:10	[若月賞受賞講演] リハビリテーション医学と温泉・温熱医学の教育、研究活動 リハビリテーションの言葉は、Re(再び)Habilitare(適応)＝破門の取消し、人間回復に由来し、従来の「病氣」治療の医学に対し、病気に伴う「障害」(機能的、能力的、心理的、社会的)治療の医学である。地域リハ活動と文部省への請願により、昭和63年、鹿児島大学に国立大初のリハ医学講座を創設し、リハ医学は全国に普及した。機能回復の研究や専門医育成と共に、医学教育委員会や介護保険委員会等にも関り、今日、介護保険受給者も年650万人に及ぶ。日本温気学会理事を務め、温泉や指宿砂浴による血流、組織代謝の改善を解明し、低温サウナによる心不全治療法(和温療法)の開発や和温療法学会の設立にも貢献した。	鹿児島大学名誉教授 田中 信行 氏 座長 鄭 真徳
16:10～16:30	休憩	
16:30～17:40	[若月賞受賞講演] 日本におけるC型肝炎の特徴 ～戦後の負の遺産～ 戦後日本の産業、経済の復興・成長は目を見張るものがあったが、その陰には大きな犠牲があった。過重労働や公害は人々の健康を害した。その上、未成熟な医療が拍車をかけた。その代表がC型肝炎である。覚せい剤注射の横行、売血、不必要な輸血や栄養剤注射、薬害などで感染が広がり、第二の国民病と言われるまでになった。その付けが今の肝がんの増加に繋がっている。C型肝炎は戦後の負の遺産である。私はC型肝炎と肝癌の撲滅に努力したが完全ではなかった。患者に寄り添った医療はまだ必要である。	信州大学名誉教授 相澤病院消化器病センター 名誉センター長 肝臓病センター顧問 清澤 研道 氏 座長 宮田 佳典
18:00～19:30	交流会	事前にお申し込みが必要です。

メインテーマ

地域をともにつくる ～災害に強い地域と医療～

2日目 7月19日(土) 8:30～

時刻	テーマ	講師・座長
8:30	受付	
9:00～10:10	[講演] 災害に強い地域と医療 ～いのちを守るために、いま私たちができること～ 近年、長野県をはじめ全国各地で自然災害が頻発しており、平成から令和にかけて、多くの尊い命が失われてきました。加えて、人口減少や少子高齢化が進行する中で、地域や家庭を支える力も徐々に弱まりつつあります。このような時代においては、災害時の迅速かつ的確な初動対応が重要であると同時に、平時から「自分の命は自分で守る」という意識を持つことや、多様な主体による支え合いの仕組みづくりが、地域の防災力や医療体制を高める鍵となります。本講演では、これまで全国の被災地支援に携わってきた現場での経験をもとに、災害対応の現状や課題を共有するとともに、これからの地域防災のあり方について、皆様とともに考えていきます。	一般社団法人危機管理教育研究所 上席研究員 後藤 武志 氏 座長 岡田 邦彦
10:10～10:30	休憩	
10:30～11:40	[講演] 地域の方とともに歩んだ復興の経過 ～看護師としてみた珠洲市の地域力～ 令和6年能登半島地震の発災直後から石川県珠洲市で被災者と共に生活をしてきた経験を共有いたします。ある地区では、発災直後から復興を考える会が開かれ、別の地区では区長をリーダーとする婦人会、青年団、消防団などを含む自主防災組織が中心となり、避難所運営が組織的に行われました。建設型応急仮設住宅への入居が始まると、地元商店を拠点としたコミュニティスペースが自主的に始動し、同じ市内でも地区ごとに異なる動きが見られました。このような地域の方は、外部支援の受け入れや自立、孤立の防止などに役立ちました。こうした経験を通じて災害にも強い地域づくりについて考え、皆さまと共有していきたいと思います。	特定非営利活動法人 ピースウィンズ・ジャパン 国内事業部 看護師 木下 真由香 氏 座長 丸山 美鈴
11:40～13:00	昼食	
13:00～15:00	[シンポジウム] 災害に強い地域と医療 司会 蓮見 純平 後藤 武志 氏 堀米 篤子 氏	一般社団法人危機管理教育研究所 上席研究員 木下 真由香 氏 佐久穂町地域包括支援センター 係長 保健師 田中 啓司 氏
15:00～15:30	閉講式	